

「あなたのため」

(ルカによる福音書 4:1-13)

霊は主イエスを荒れ野に導きました。主イエスは荒れ野で独り、神と向き合いますが、それは同時に悪魔と向き合うことでした。主イエスが悪魔から受けた誘惑は、わたしたちの日常における悪魔からの語りかけです。荒れ野はどこか遠いところではありません。わたしたちの日常にあるのです。食べ物を好きなだけ得られる力、世界を自由にできる力、誰よりも財力と権力を得ること…。誰もが大きなり小なりそのことに心奪われていることに思い当たるはずです。悪魔の誘惑は、わたしたちの日常の隅々に及んでいるのです。

悪魔は主イエスの弱みに付け込み、おだて、利益をちらつかせ、主イエスを神から引き離し、自分を拝もうとさせます。悪魔は決して力づくでそれをしようとはしません。あたかも「神の意思にも叶う」「正しい」と思わせて、納得させて主イエスを自分のところへ引きずり込もうとします。悪魔は相手をよく知っています。ことに、弱みをよく知っています。悪魔は、「あなたのために」という一貫した姿勢で誘惑してきます。「あなたが神の子ならそれができる」「あなたが願えば天使があなたを支える」「あなたにすべてを与えよう」…すべて、「あなた」と呼びかけます。それは、人間が「わたし」のことだけを考えてしまう生き物であることを、悪魔は知り尽くしているからです。「あなた、あなた、あなた」というつぶやきに従ってしまうのは、「わたし」のことだけを考えてしまう人間の弱さゆえです。悪魔の誘惑にハマりやすい人は、「わたしのことだけ」を考えている人間です。

しかし、悪魔の「あなたのため」が本当に「あなたのため」になるかという点とまったく違います。実際、わたしたちの世界は、食料、権力、あらゆる力を「わたしのためだけ」に独占しあっていることで、貧困も、抑圧と暴力のもとに生きざるを得ない命もなくならないのです。まさに悪魔の思うつぼです。

まことの導き主なる主イエスは、荒れ野においてこの誘惑に打ち勝ち、わたしたちが信じ、聞くべき言葉を示してくださっています。大斎節第一主日、主イエスが荒れ野において、神と悪魔の言葉に向き合われたように、わたしたちは日々、神の言葉、悪魔の言葉、どちらに従っているだろうか、自らを省みたいと思います。